

政治・経済定点観測レポート

ウズベキスタン NOW

【第 21 号:2012 年 4 月—2012 年 6 月期】

* 本レポートは ROTOBO の協力者である現地専門家の執筆によるものです。内容は執筆者の個人的見解であり、ROTOBO の組織的見解とはいかなる意味でも関係ありません。内容の無断転載、引用は堅くお断りします。

経済概況

第 1 四半期の GDP 成長率は 7.5%、約 95 億ドルとなった

成長率は鉱工業生産が 6%、農業生産が 6.1%、建設が 6.6%であった。国家予算の遂行状況は歳入が歳出を上回り、黒字額は GDP の 0.2%であった。そのほかの成長率は、消費物資生産高が 5.4%、（製造）現地化製品生産高が 19.4%、小売りが 11%、サービスが 12.5%であった。

CIS 諸国との貿易高は 19.3%増加して 24 億 9,000 万ドルとなった。このうち輸出は 34.9%増加して 14 億 1,500 万ドルとなり、輸入は 3.6%増加して 10 億 7,500 万ドルとなった。CIS 諸国との貿易黒字は 3 億 4,010 万ドルであった。2012 年 1 月～3 月の全体の貿易高は 2%増加の 59 億 800 万ドルとなった。

アジア開発銀行（ADB）の予測によればウズベキスタンの GDP 成長率は 2012 年が 8%で、2013 年が 7.9%となる

これまで ADB は 2012 年のウズベキスタンの経済成長率を 8.4%程度と予測していた。ウズベキスタン経済の主たる成長の原動力となるのは鉱工業とサービスセクター、農業分野では野菜・果物の生産増である。インフレ水準は 2012 年が 9.5%、2013 年が 9%と予測されている。経常収支黒字は GDP 比で 2012 年に 7.5%程度、2013 年に 6%程度になる。ウズベキスタンの外貨準備高は 2012 年に 230 億ドルまで、2013 年に 250 億ドルまでそれぞれ増加する。ADB の予測によると対外債務は GDP 比で今年が最大 20.2%となり、2013 年には 22.8%まで増加する。

二国間関係

今年 6 月、カリモフ大統領の中国訪問中に総額 52 億ドルに及ぶ 40 を上回る貿易・経済、投資および融資協定ならびに契約が締結された

炭化水素原料の生産、輸送および精製処理、化学製品生産の各分野、ならびにエレクトロニクス、電気技術、情報技術および遠隔通信、製薬および建材生産の各部門で各種のプロジェクトの実施が予定されている。綿花、ウラン、天然ガス、非鉄金属およびレアメタルなどの戦略的に重要な材料を中国向けに長期ベースで供給することについても合意が達成された。「中国—キルギス—ウズベキスタン」ルートの鉄道建設プロジェクトの早急な実施を双方が支持するとしたことは、極めて重要な会議の成果であった。鉄道と橋梁の建設を担当する中国社は今年年末までにこのプロジェクトの事業化調査を完了して報告書を作成する予定である。

投資政策

ウズベキスタンは向こう 3 年の間 418 企業の旧式設備の交換に 11 億ドル強を投資

旧式設備を最も多く抱えている上位 3 社には、国営株式会社ウズベクエネルギー、ナヴォイ鉱山精錬コンビナート、国営持株会社ウズベクネフチェガスが入っている。旧式設備の交換のために、2012 年は 2 億 5,500 万ドル強、2013 年には 3 億 8,890 万ドル、2014 年には 4 億 8,190 万ドルが投資される予定である。

タシケントに程近いアングレンに経済特区が創設

アングレン経済特区に進出する事業者は、利潤税、法人資産税、社会インフラ整備・拡充税、零細・小規模企業対象の統一支払税、ならびに共和国道路基金への義務的控除の支払いを免除されることになる。その上さらに、共和国では生産されず、事業実施の一環としてアングレン産業特区の領域に持ち込まれる設備、組立用部品および材料については、内閣によって承認されるリストに基づいて、関税その他の通関時の納付金（通関料を除く）の支払いが免除される。優遇措置は投資額に応じて 3～7 年の期間供与される。すなわち、優遇期間は投資額が 30 万ドルから 300 万ドルまでの場合は 3 年、300 万ドルを超え、1,000 万ドルまでは 5 年、1,000 万ドルを超える場合は 7 年となる。

エネルギー・セクター

国営持株会社ウズベクネフチェガスは 2012 年、資源エネルギー部門の発展と近代化に向けた投資を 2011 年比 12.5%、27 億 100 万ドルまで増やす

投資総額のうち、外資による直接投資が 18 億 9400 万ドル、自己資金が 4 億 5258 万ドル、ウズベキスタン復興開発基金の資金が 3 億 500 万ドル、海外およびウズベキスタンの市中銀行による融資が 3 億 5800 万ドルをそれぞれ占める。とりわけ中国の CNPC は「中央アジア-中国」ガスパイプラインのウズベキスタン区間第 3 トレーンの建設に 6 億 760 万ドルを投じている。ルクオイルは二つの生産物分与協定（PSA）の実施に 5 億 2,000 万ドルを投じている。ウスチュルトガス化学コンビナート建設の一環として韓国企業数社のコンソーシアムと共同で 4 億 2,000 万ドルが投じられることになっている。また、南アフリカの Sasol との共同プロジェクトの枠内で 2 億ドルがカシュカダリヤ州における合成燃料生産工場の建設に投じられる。シンガポールの Indorama Group と共同で、ムバレクガス処理精製工場を基盤にしたガス化学コンビナートの建設の枠内で 1 億ドルが投じられる予定である。

ウズベキスタンは天然ガスの輸出量を 2011 年の 120 億 m³ に対して 2012 年は 150 億 m³ まで引き上げる予定

ガス輸出量の引き上げはロシア向け供給（現在ガスの全輸出量の約 90%）および中国に向けた新たな販路を通じて行われるであろう。計画では 2012 年の年末まで 20～40 億 m³ のガスを中国向けに供給することになっている。国営持株会社ウズベクネフチェガスと CNPC は年間最大 100 億 m³ に及ぶ天然ガス売買包括協定を 2010 年 6 月に締結している。ウズベクネフチェガスの資料によるとウズベキスタンにおける 2011 年の天然ガスの生産量は 4.4% 減少して 630 億 3,600 万 m³ となった。

ルクオイルが総額 2 億 5,000 万ユーロの太陽光発電所建設プロジェクト・コンセプトを用意

発電所は容量が 100MW となり、ナヴォイ市地区に建設する予定である。このプロジェクトの実現のためにルクオイルは ADB から資金を誘致することになっている。2012 年 2 月、ウズベキスタン政府と ADB は太陽エネルギー研究センターを新たに設立することについて覚書を締結している。この研究センターが設立されることになればいずれウズベキスタンは太陽エネルギー技術の知識と輸出の国際ハブになることができよう。

インドの数社がインドにおけるいくつかのプロジェクトの実施に公開型株式会社ウズベクウゴリを誘致する予定

採鉱専門の ShivVani 社はインドにおけるいくつかの石炭鉱床の開発プロジェクトにウズベキスタンの技術者を誘致する予定である。また、石炭地下ガス化の面での協力も予定されている。計画では、ポドゼムガス (Podzemgaz) 社で用いられている技術が採用される。インド国家ガス庁は以前、公開型株式会社ウズベクウゴリとの間で協力覚書を締結している。現在インド側は、これらのプロジェクトの実現に関連した手続き上の諸問題の解決に当たっている。

自動車・輸送セクター

アンジジャンの自動車クラスターは総額 1 億 3,200 万ドルの自動車組立用部品を生産することになる

ここ一年の間にアンジジャンでは自動車組み立て用部品の生産を専門とする 5 つの工場が新たに建設された。これらの工場の建設事業の費用は合わせて 6,920 万ドルであった。自動車クラスターに加わったのは、ウズハンブ (UzKhanvu)、ウズエコカト (UzEkokat)、ウズドンジュ (UzDongZhu)、ウズイラエ・クリマト・コントロリ (UzIrae Klimat Kontrol')、ウズアフト・アウステム (Uzavto Austem) の各合弁企業 (工場) である。このうち最も大きな工場は、ラジエーター、空調・換気・暖房システムを生産するウズイラエ・クリマト・コントロリおよび、ホイール・ディスクとシャーシ・アセンブリを生産するウズアフト・アウステムである。ウズドンジュはゴムパッキン、ウズエコカトは触媒、ウズハンブは防音材料をそれぞれ生産することになっている。

サマルカンド自動車工場が今年、トラックとバスの生産台数を 23%引き上げる予定

昨年の実績によるとサマルカンド自動車工場は 900 台のトラックと 1,400 台のバスを生産した。工場は今年トラック 1,100 台とバス 1,900 台を生産する計画である。2013 年は生産台数の伸び率がさらに上昇すると期待されており、工場はトラック 1,200 台とバス 2,100 台を生産することになる。サマルカンド自動車工場に供与された一連の税・関税優遇措置の効力が 2012 年から向こう 5 年間にわたって延長された。とりわけ工場は、利潤税、法人資産税、法人土地税、付加価値税、教育・医療施設改修、オーバーホールおよび装備予算外基金への義務的控除が免除された。

その他のセクター

向こう 2 年間の間に中国から 5,000 万ドルの投資を誘致することにより ハイテクパークが創設される予定

同プロジェクトはジザク州内で実施される。2012 年、中国側各社の参加を得てパークの域内に電子、建設、農工産業、機械製作の各部門の 15 工場を配置する計画である。2013 年下半期には第一段階の各工場が操業を開始することになる。それぞれの共同事業の資金手当ては、ウズベキスタン側パートナーの資金、ならびに中国国家開発銀行のクレジットラインを利用して行われることになろう。

2012～2016 年サービス分野振興プログラムが承認された

2016 年までに GDP におけるサービス分野の比率を 55%に引き上げる計画である。通信および情報化サービス（移動体通信サービス、インターネット接続サービス、有線画像通信サービス、郵便、遠隔通信を含む）、金融サービスおよび建設サービスの量は 2.2 倍に引き上げられることになろう。また、コンピューター・プログラミング・サービス（e-教育およびコンサルティング・サービスを含む）、売買サービスおよび公共給食サービスの量が 2.4 倍に増加することになろう。地域レベルで見ると、サービス分野で最も高い成長が期待されるのはサマルカンド州であり、成長率は 2.4 倍となる予測である。この分野で事業を実施する事業体は OAKB ミクロクレジットバンクの資金を原資に総額約 1 億 9,000 万スムの優遇融資を利用することができるとの決定が採択された。